

生態園マップ～2020夏編～

きせつ
季節のできごと

はたけ なつやさい そだ

・畑で夏野菜が育っています。ナス、トマト、キュウリ、サトイモなどです。 <A>

き かじつ ちい あお みの はじ

・カキの木の果実が小さく、青く実り始めました。

せいたいえん う そだ

ことし

・生態園で生まれ、育ったカブトムシ、クワガタが今年はたくさんみられます。

らいねん

かんさつ

せいたいえん もど

来年もみられるように、観察したら生態園に戻しましょう。



ブットレア



むらさきいろ はな ふさ しほう の
紫色の花の房を四方に伸ば

しているのは、ブットレアです。
べつめい ちょう
別名「バタフライ・ブッシュ(蝶の
しげ あま かお みつ
茂み)」といいます。甘い香りと蜜
ちょう ひ わめい
が、蝶を引きつけます。和名のフ
すがた
サフジウツギ(房藤空木)も、姿
ひょうげん
をよく表現していますね。

ハナゾノツクバネウツギ (アベリア)



ていぼく はる あき かねがた ちい
低木で、春～秋に、鐘形の小
はな たすう さ はな
さい花を多数咲かせます。花
かお つよ しろいろ たんこうしょく
の香りは強く白色や淡紅色を
お まなつ じき はな
帯びます。真夏の時期に花を
ざいらいしょくぶつ すく
つける在来植物が少ないた
たよう
め、多様なハチやチョウが
きゅうみつ あつ
吸蜜に集まります。

あつ こんちゅう
クヌギに集まる昆虫たち

みぎ しゃしん すうねんまえ なつ せいたいえん さつえい き じゅえき
右の写真は、数年前の夏に生態園で撮影されました。クヌギの木の樹液をカブトムシ(メス)、コガネムシ、アカボシゴマラダが吸いに来ています。カブトムシのオスはいませんね。オスは硬い体と丈夫な角を持ち、闘争心も強いので、他の昆虫を押し回してしまいます。そのため、オスのいない時に他の昆虫がくるようです。

き だいす かんさつ さい ちゅうい
なお、クヌギの木はスズメバチも大好きですので、観察の際は注意してください。

いっしゅう やく ねん きよねん がつころ く き した つち なか う たまご
カブトムシの一生は約1年です。去年の8月頃、朽ちたクヌギの木の下の土の中などに産みつけられた卵は、約10日で幼虫になり、何度か脱皮しながら冬を越します。幼虫の間の餌は腐葉土です。今年の6月～7月頃、約10日をかけて蛹(さなぎ)になり、成虫になります。成虫の寿命は1～2ヶ月しかありません。

みみ きかん な からだ は け しんどう
カブトムシには耳にあたる器官がありません。そのため鳴くこともありません。体に生えている毛で振動を感じ取っています。主に触角を使って、においの信号を頼りに行動しています。



ほそく： へいせい ねん がつ ねん
補足：アカボシゴマダラは平成30年1月(2018年)に特定外来生物に指定されました。

せいたいえん はたけ
生態園の畑



せいたいえん はたけ さくもつ こうかがく
生態園の畑にある作物は、光化学オキシダント(光化学スモッグ)の植物への

ひがい かんさつ たど
被害を観察するためのものです。例えば、サトイモ・ピーナツ・アサガオ・バジルなどを見ると葉っぱの表面が変色しているものがあります。これらは、光合成をするときに二酸化炭素と一緒に光化学オキシダントを吸い込み、細胞に被害をうけたことによるものです。

げんき は ちが み
元気な葉っぱとの違いを見てみましょう。

ハグロトンボ・チョウトンボ・ショウジョウトンボ

あいだ らくえん
しばらくの間、バッファゾーンはトンボの楽園です。ハグロトンボ、ショウジョウトンボなどに出会えます。真っ黒な体にキラリと光る幅広の、黒い羽をひらひらさせて飛ぶチョウトンボもこのあたりに生息しています。

